

介護保険事業計画に記載した「自立支援, 介護予防又は重度化防止に関する取組と目標」 (令和4年度)報告様式

1 健康・生きがいづくりの推進と生活支援サービスの充実

【目標を設定するに至った現状と課題】

高齢化率は増加の勢いは鈍化しているが増加している中, あと数年で後期高齢者数が前期高齢者数を上回ることが見込まれています。高齢者の地域における社会参加は地域のつながりや支えあいを育むとともに, 高齢者自身の生きがいづくりや介護よぼうも期待されます, 地域における活動の情報提供や活動の場の提供など, 高齢者に対する社会参加の促進を支援していくことが求められています。

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】

- ・介護予防のための通いの場であるシルバーリハビリ体操教室への参加促進と体操指導士の活動支援
- ・認知症予防体操(フリフリグッパ体操)を中心とした地区運動集会への参加促進とボランティアの活動支援

【目標】

- ・シルバーリハビリ体操教室実施回数(708回), 参加人数(10,000人/延)
- ・フリフリ地区運動集会開催回数(63回), 参加人数(1,000人/延)

【実績】

- ・シルバーリハビリ体操教室実施回数(R4:708回), 参加人数(R4:16,314人/延)
参加ボランティア数(R4:58人/実)
- ・フリフリ地区運動集会開催回数(R4:62回), 参加人数(R4:1,578人/延)
参加ボランティア数(R4:21人/実)

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

要介護認定率が低率で推移。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価【A】

評価理由:新型コロナウイルス感染症対策対策を実施しながらシルバーリハビリ体操, フリフリ地区運動集会を行い, 目標はほぼ、達成されました。
今後の方針:事業継続。

2 認知症への対応と高齢者の尊厳の保持

【目標を設定するに至った現状と課題】

認知症高齢者の増加が見込まれる中で認知症に関する相談や支援件数についても増加しており, 認知症に対し様々な側面から取り組みを実施している。このような現状の中で認知症高齢者等が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるためには, 特に地域や周囲の理解や支えが必要不可欠であり, 認知症サポーターの養成の促進が求められている。

【設定した主な取組及び目標・実績】※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】 認知症サポーター養成講座・もの忘れ予防講座の開催。
【目標】 認知症サポーター養成者数 R4年度 一般住民40名, 中学生・高校生100名
もの忘れ予防講座 R4年度 3回・人数310名
【実績】 認知症サポーター養成講座の開催 一般住民:2回 合計29名,
中学生・高校生:0回0名(対象:中学生)
※中学生・高校生は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止
もの忘れ予防講座 3回292人(延人数)

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

地域における認知症理解の促進とともにキャラバンメイトやボランティアの活用を図ることができる。また、認知症予防や早期発見治療, 正しい理解と対応についてお互いに支えあう地域づくりが進んでいる。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価【B】

評価理由:認知症サポーター養成講座及びもの忘れ予防講座について、いずれも目標値を下回っているものの、中学生を対象とした認知症サポーター養成講座を除けば、新型コロナウイルス感染拡大の状況下においても予定していた取組を実施することができ、一定の実績を確保することが出来たため。
今後の方針:新型コロナウイルス感染症への対応が緩和された状況を踏まえ、今後もキャラバンメイトやボランティアとの緊密な連携を図り、認知症サポーター養成講座やもの忘れ予防講座を継続して開催する。

3 利用者本位の介護サービスの充実

【目標を設定するに至った現状と課題】

利用者本位の介護サービスについて目標は設定していない。

【設定した主な取組及び目標・実績】※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】 なし
【目標】 なし
【実績】 なし

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価【 】

評価理由:
今後の方針:

4 在宅医療と介護連携の推進

【目標を設定するに至った現状と課題】

高齢者が要介護状態等になっても、住み慣れた地域で高齢者の生活を支える地域包括ケアシステムの構築が目指されている。このような中、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域における医療・介護の関係機関が連携し、多職種協働により、在宅医療・介護を一体的に提供できる体制づくりが求められている。

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】 ICTツールの説明会, 研修会の開催
利用状況の把握と課題分析
【目標】 利用患者数 60名
【実績】 利用患者数 62名
研修会の開催 1回

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

在宅介護医療連携の推進。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価【S】

評価理由:目標値を達成できたため,【S】とした。

今後の方針:取手市,守谷市,利根町と委託機関である取手市医師会と協働し,ICTツール「電子@連絡帳」の啓発に努め,一層の在宅介護医療連携の推進を図る。

5 安全・安心なまちづくりの推進

【目標を設定するに至った現状と課題】

利根町は高齢化率は40%を超えており,県内でも2番目に高い高齢化率となっている。それに伴い,一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯,要介護認定者,認知症高齢者などが増加していく中で,地域全体で高齢者を見守り支えていく体制の強化など,住み慣れた地域で安心して暮らすことができる生活支援サービスを提供していく必要がある。

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】 65歳以上の一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯等を対象にひとり暮らし高齢者台帳の登録を進めている。
【目標】 台帳登録者数の対前年度比増
【実績】 R4年度 新規登録者数 59名
R5.3月31日現在 899名(男性:319名 女性:580名)

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

民生委員と連携し,支援が必要な高齢者に介護サービスや生活支援サービスを推奨することにより,高齢者支援体制の向上につながると思慮される。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価【S】

評価理由:前年度と比較して,ひとり暮らし高齢者台帳の新規登録者数は,若干下回っているものの,合計登録数についてはより増加したため。

今後の方針:民生委員や地域包括支援センターとの情報共有を引き続き徹底し,支援が必要な方に必要なサービスを提供していく。

6 その他

【目標を設定するに至った現状と課題】

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】
【目標】
【実績】

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価【 】
評価理由：
今後の方針：